

令和7年度  
バリアフリー・ユニバーサルデザイン  
推進功労者表彰  
受賞事例集

## 令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰 受賞者事例集の刊行にあたって

内閣府では、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的として、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を実施しています。

この表彰は、高齢者、障害者、妊婦や子ども連れの人を含む全ての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を表彰するものです。平成14年度から毎年度実施しており、今回で24回目の表彰となります。

関係省庁、都道府県、政令指定都市を通じて推薦のあった候補者の中から、今年度は、内閣総理大臣表彰3件、内閣府特命担当大臣表彰優良賞5件、同奨励賞7件が選考され、表彰式において、高市内閣総理大臣及び黄川田内閣府特命担当大臣から受賞団体の代表者に対して、表彰状が授与されました。

今後、一人でも多くの方が本事例集を開き、バリアフリー・ユニバーサルデザインへの理解と関心を持っていただくことで、国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会、「共生社会」を目指した活動の輪が広がっていく一助となりますことを期待いたします。

令和8年2月  
内閣府



令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰式  
開催日：令和7年(2025年)12月24日(水)  
開催場所：内閣総理大臣官邸大ホール

講

評



令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を受賞された皆様、誠におめでとうございます。

今年度の表彰に先立ち、例年どおり、関係省庁や全国の地方公共団体から28件の優れた候補者を推薦いただきました。受賞者の選考に当たり、まずは選考委員による書面審査を行いました。その結果に基づき、第1回選考委員会において、現地調査を実施する候補者を選考しました。現地調査では、候補者の団体や事業所等において、その活動内容の確認、現場の方々からのヒアリング等を実施し、これを通じて功績として評価できる事実を調査しました。最後に、第2回選考委員会において、現地調査報告を踏まえ、厳正な審議を経て、次の15件を今年度の受賞者として選出しました。

今年度は、例年以上に多くの候補者が推薦され、その中から例年を上回る受賞者が選出されました。活動主体の多様性、対象とする生活場面の広がり、そしてバリア解消のための創意工夫という点で、特に充実した内容となりました。障害当事者をはじめ、自治体、企業、福祉団体等がそれぞれの特性を活かし、日常生活に直結する具体的課題に主体的に取り組んでいる点が高く評価されました。また、長年の実績を積み重ねて発展段階にある取組と、近年開始され今後の展開が期待される新規事業が併存していることも本年度の特徴でした。一方で、推薦件数の増加に伴い、優れた実践でありながら受賞に至らなかった団体もありました。本表彰は優劣を決するものではなく、社会に広がる多様な取組を可視化し、相互に学び合う契機とするものです。今回選外となった団体の活動もまた、地域社会において重要な役割を果たしており、今後のさらなる発展が強く期待されます。

引き続き、障害の有無等にかかわらず、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる「共生社会」の実現を目指したバリアフリー・ユニバーサルデザインの取組が重要です。この度、受賞された優れた取組が今後全国各地に波及し、さらなる多様なバリアフリー・ユニバーサルデザイン活動が活発に展開されていくことを期待しています。

最後になりましたが、本表彰に関し、候補者の推薦などご協力をいただきました関係省庁・都道府県・政令指定都市を始めとした全国各地の関係機関に、改めて深く感謝申し上げます。

バリアフリー・ユニバーサルデザイン  
推進功労者表彰選考委員会  
委員長 中野 泰志

# 目 次

## ● 令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰受賞者

### 内閣総理大臣表彰（3件）

宇都宮市・芳賀町・宇都宮ライトレール株式会社	1
貝谷嘉洋	3
社会福祉法人ながよ光彩会	5

### 内閣府特命担当大臣優良賞（5件）

iPresence株式会社	7
錦城護謨株式会社	9
公益社団法人SSP	11
全国ろうあヘルパー連絡協議会	13
特定非営利活動法人ピープルデザイン研究所りんごプロジェクト	15

### 内閣府特命担当大臣奨励賞（7件）

神奈川県・NPO法人pena	17
株式会社プラスヴォイス	19
公益財団法人神奈川県公園協会・特定非営利活動法人HONKI University	21
公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンター	23
KOSEN-ATネットワーク	25
ひとにやさしいうつわ開発研究会	27
方南銀座商店街振興組合	29

- これまでの受賞者一覧 31
- バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要領 41
- 選考委員会委員名簿 42

令和7年度

内閣総理大臣  
表彰

国土交通省推薦

# 宇都宮市・芳賀町・ 宇都宮ライトレール株式会社

(栃木県宇都宮市・芳賀町)

## 【受賞理由】

- 全国初の全線新線による本格的なLRTの開設にあたり、「移動円滑化基準を丁寧に守る」を徹底し、合意形成の軸として活用。
- 段差・隙間の基準値の達成やスロープの設置、バリアフリー車両の導入などを高い水準で実現。
- 基準を丁寧に守り、対話を重ねれば、アクセシビリティは確実に実現できる」という極めて重要な示唆を全国に示し、新規事業であることの利点を活かしつつも、行政としての謙虚さと誠意をもって市民との信頼を築いたからこそ得られた成果であり、他の自治体にとっても再現性の高い実践知として高く評価。



## 【団体概要】

➤ 全国初の全線新設による本格的なLRT(ライト・レール・トランジット)であり、高齢者、子育て世代、障害者など誰もが利用できる公共交通インフラとして芳賀・宇都宮LRT(ライトライン)を2023年8月に開業。

## 【功績・功労】

➤ 視覚障害者団体をはじめとする当事者から、施工前フェーズである設計段階から意見等を伺い、点字ブロック配置の改善や誘導導線の分かりやすさなど、利用者にとって直接的な利便性を高める仕様修正・決定を多数実現した。

➤ 開業後の調査では、

- ・高齢者や免許を持たない市民の外出頻度の増加
- ・歩行量(平均歩数)の増加
- ・通勤・通学時間の短縮
- ・子育て世代や車椅子利用者の満足度の向上

など、生活の質(QOL)の改善と社会参加の促進が明確に確認されている。

➤ 多くの自治体から視察が相次いでおり、現時点の日本におけるバリアフリー公共交通の「スタンダード」を提示するモデルケースとなっている。

特に、「基準に沿えば誰でも再現できる」「新設であればこの水準ができる」というメッセージ性は、全国の地方都市における公共交通整備の背中を押しているといえる。



令和7年度

内閣総理大臣  
表彰

厚生労働省推薦

貝谷嘉洋

(東京都)

【受賞理由】

- 貝谷氏は、2003年より障害者の国際舞台芸術コンクール「ゴールドコンサート」を制作・総指揮し、20回主催。2013年より障害者が運営の担い手となるロック・ポップスの複数の著名アーティストによる音楽イベントである「GCグランドフェスティバル」を開催。数多くの障害当事者のパフォーマーを発掘・支援。
- 重度肢体不自由者として日本初のジョイスティック車運転免許の取得者であり、運転の自由が障害者のQOL(生活の質の向上)向上等につながることを啓発。
- その活動は、影響を受けた他の団体やボランティアによる障害者が参加する音楽祭やコンテストの開催などに波及しており、多くの様々な人々を巻き込み、障害者の社会的な活躍の場を拡大させた、その貢献を高く評価。



貝谷 嘉洋 氏

## 【 概要 】

➤ 筋ジストロフィーのため14歳で歩行不能となり、通常の学校から入学を制限される等、未整備な環境ながら日本で大学卒業後、単身渡米。現地介護者雇用により自立生活をしながらカリフォルニア大学バークレイ校で修士号取得、片手で運転できるジョイスティック車で北米大陸一周した経験を通じて、障害者の自立促進、権利拡大の必要性を実感し、帰国後NPO法人を設立し、障害者支援活動を開始した。

## 【 功績・功労 】

- 2021年5月、重度肢体不自由者として日本初のジョイスティック車運転免許を取得。調査研究や講演活動を通じ、運転の自由が障害者のQOL向上、自立、社会参加につながることを啓発してきた。
- 国際舞台芸術コンクール「ゴールドコンサート」において、バリアフリーに優れたホールを選定し、情報保障(ネット生配信、手話、PC文字通訳)を充実させるなど、アクセシビリティを追求するとともに、パラリンピック開会式への出場者を輩出するなど、障害者の社会的な活躍の場を拡大させた。
- 障害者が様々な業務を担う、日本初の障害者が主催するエンタテインメント事業「GCグランドフェスティバル」において、障害の有無に関わらず同じ場で実際に働き、遊ぶことによりそれが当たり前社会になるよう参加者に啓発。
- NPO団体として大臣表彰を受賞した令和3年以降も、障害当事者等のこどもたちがコンサートの運営補助に携わる「キッズボランティア」活動などの新たな取組を開始した。



ゴールドコンサートの様子

令和7年度

内閣総理大臣  
表彰

国土交通省推薦

# 社会福祉法人ながよ光彩会

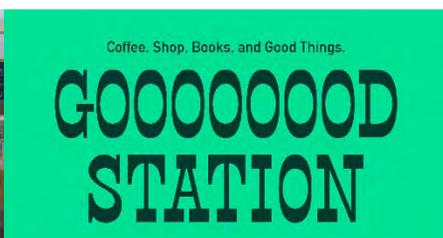
(長崎県西彼杵郡長与町)

## 【受賞理由】

- 当団体は、「彩りある社会福祉を地域全体で共創する」という理念を掲げ、誰一人取り残されない街づくりを福祉の視点で展開。
- 推薦事由である、無人駅での乗降介助等の活動は、同団体が県内で普及を進めている、「ユニバーサルアクションプログラム(障害者自身がファシリテーターとなり、対話を通して学ぶ発見型の研修)」の受講者が、専門家の助言の下、質の高い支援を実施。
- このほか、特別養護老人ホームと地域の若者等をつなげる取組、障害者・高齢者の切れ目のない就労支援、みんなのまなびば み館 の運営、など、地域の構成員全体のWell-Beingの向上を目指した活動を総合的に展開し、成果をあげており、その独創性や将来性等を高く評価。



みんなのまなびば  
み館 MIKAN  
SCHOOL



## 【 団体概要 】

➤ 当団体は2014年に設立された社会福祉法人であり、特別養護老人ホームと地域の若者等を繋げる活動、障害者・高齢者への切れ目のない就労支援、行政や地元事業者等と連携しながら子ども達の居場所づくり、経済的困窮世帯の支援等の地域課題全般に対して、誰一人取り残さない「まちづくり」を福祉の視点から行っている。

また、一部時間帯で無人駅となる「長与駅」において、JR九州から委託を受け、身体が不自由な方の乗降介助や時間帯によって変わる乗車ホームの案内等といった駅利用者の困りごとへの対応を行うほか、駅構内に開設したコミュニティホールの運営を行っている。

## 【 功績・功労 】

- 地域の様々な場所に生じる課題やニーズ等を、福祉の心を広げるためのチャンスとして捉えた、地域福祉を目指した総合的な取組であり、街の様々な場所や生活している人々に「福祉」の精神が伝わっている。
- 「彩りある福祉を地域全体で共創する」という理念が、駅だけでなく、様々な場所で展開され、数多くの成果を挙げている。



無人駅だった長与駅構内にカフェ&ショップ機能などを持つ  
GOOOOOOD STATION(グッドステーション)を開設

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
優良賞  
経済産業省推薦

# iPresence株式会社

(兵庫県神戸市)

## 【受賞理由】

- 「テレロボ学校生活参加サービス」を提供し、入院中の生徒が、テレプレゼンスアバターロボットを操作して、あたかも教室にいるかのように、グループワークの場面で生徒と喋ったり、手を振りあったり、自分が見たい方向に向いたり、頷いたりもできるような環境を実現。「学校生活」という言葉にこだわり、単に授業を聞くだけではなく、他の生徒とこっそり話したり、休憩時間におしゃべりしたり、体育や運動会などの屋外の行事にも参加できるなどトータルの学校生活を実現している点を評価。
- また、「どこでも万博」という企画に参画して、入院中の子どもがテレロボで大阪・関西万博を体験することを実現するなど、学校以外の場でも積極的な取組を実施。



テレロボを介して支援を行っている子どもたちの様子

## 【 団体概要 】

➤ 2014年創業(本社:兵庫県神戸市)。遠隔でその場にいるかのようにコミュニケーションができるテレプレゼンスアバターロボット(テレロボ)やリアル空間をデジタル上にコピーした空間を再現するデジタルツインなどの先端技術を開発し、遠隔操作でデジタルツイン空間の構築や工場案内システムの導入を通じて、日本のものづくり業界や医療・介護分野の社会課題解決に貢献している。

## 【 功績・功労 】

- テレロボを活用して、病気や障害により移動が制限される子どもたちが遠隔で学校生活に参加できる環境を提供している。
- テレロボやメタバース技術を活用し、不登校児童・保護者・教員がつながる「学校生活参加支援コミュニティ」を運営している。
- 特別支援学校の生徒による絵画をデジタル変換し、メタバース空間に配置する「メタバース展示会」も開催し、多様な子どもたちの社会参加を支援している。



テレプレゼンスアバターロボット(テレロボ)

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
優良賞  
経済産業省推薦

# 錦城護謨株式会社

(大阪府八尾市)

## 【受賞理由】

- 同社は、2019年にバリアフリー推進課を設立し、ゴム製品開発の技術力を活かし、視覚障害者の移動支援ツールの開発に継続的に取り組む。
- 凹凸のないスロープ形状で車イス利用者や高齢者が円滑に移動できるゴム製歩行誘導マット「歩導くんガイドウェイ」を開発し、公共施設、病院などの屋内施設に展開。
- 設置マニュアル作成、設置時の調査の実施を行うなど安全に配慮して、視覚障害者、車いす利用者等の異なるニーズを考慮しながら、円滑な屋内移動を実現したことを評価。



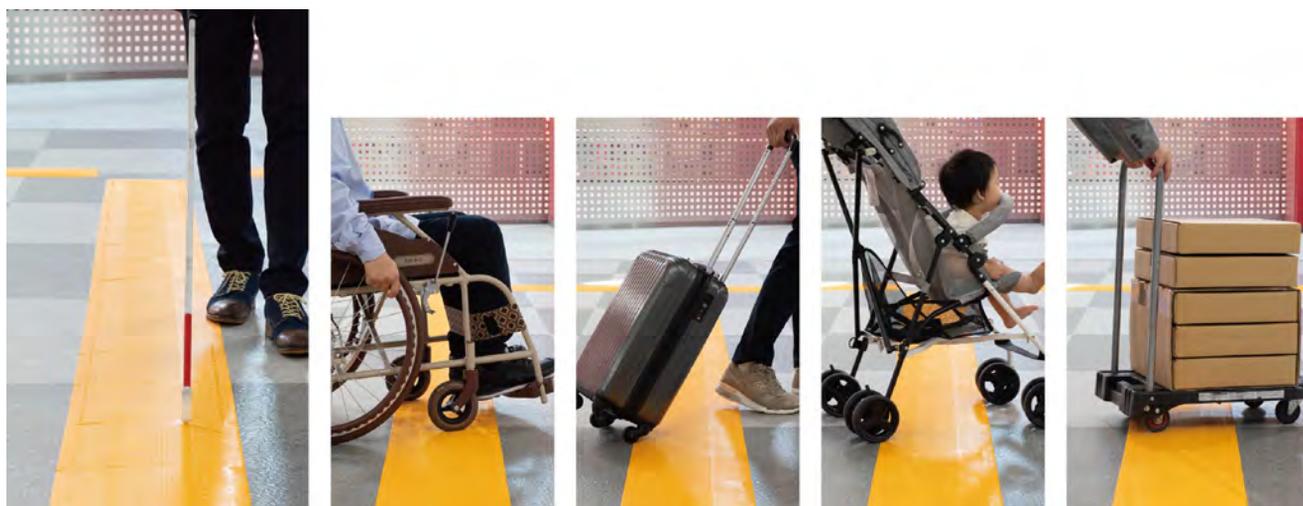
屋内専用のゴム製歩行誘導マット「歩導くんガイドウェイ」

## 【 団体概要 】

➤ 1936年創業(本社:大阪府八尾市)。2019年に社内にバリアフリー推進課を設立し、創業89年のゴム部品製造技術を活かした開発力と技術力を強みに、視覚障害者の移動支援および関連ビジネスの展開に取り組んでいる。

## 【 功績・功労 】

- 同社は、視覚障害者のための移動支援ツールを開発し、公共施設、病院、オフィスビルなど国内で累計1,200ヵ所以上に製品展開し、普及に向けた取組を積極的に行っている。
- 特に同社が製造・販売しているゴム製歩行誘導マット「歩導くんガイドウェイ」は、視覚障害者と車椅子利用者の協力のもと、開発され、様々な人の利便性に配慮した「インクルーシブデザイン」を実現している。



視覚障害者、車いす利用者、スーツケース、ベビーカー、台車が誘導マットを通行する様子

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
優良賞  
相模原市推薦

## 公益社団法人SSP (神奈川県相模原市)

### 【受賞理由】

- オートバイに乗りたいという障害者をサポートする活動は、世界で公益社団法人SSPのみであり、先進的かつ独創的である。
- 障害者は様々な場面で挑戦を諦めなければならないことが多いところ、障害者の「バイクに乗りたい」という前向きな気持ちに対して「断らない」ことを基本姿勢に、どうやったら乗れるか一人一人の具体的な方法を考え、工夫し、ボランティアの協力も得て実現。
- 障害者がオートバイに乗るといふ、普通であれば考えられないことを実現しており、大きな社会的インパクトとなっている点を評価。



「やるぜ！！箱根ターンパイク2025」の様子

## 【 団体概要 】

➤ 2019年に相模原市で設立。全国で初めての試みとなる、障害の有無に関わらず、オートバイに乗車する体験を提供するという取組を行っており、障害があっても乗ることができる補助輪のついたオートバイの開発や、「公道でツーリングをしたい」という強い希望から箱根ターンパイク等で公道を貸し切ったツーリングイベントを行っている。

## 【 功績・功労 】

- オートバイが大好きな人たちが障害者になって、もう乗れないと諦めていたが、SSPのサポートによってオートバイに乗ることが可能となっている。利用者は、大きな喜びを感じており、さらに、何事にもチャレンジするという前向きな気持ちが芽生えており、社会参加の促進に大きく貢献している。
- オートバイに乗りたいという障害者は増えており、ボランティアも集まっている。7年間取組を継続し、これまで体験走行会に参加した障害者は270名。今年で4回目となるツーリングイベント「やるぜ！！箱根ターンパイク」を開催するなど活動も広がっている。



「やるぜ！！箱根ターンパイク2025」の様子

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
優良賞  
厚生労働省推薦

# 全国ろうあヘルパー連絡協議会

(大阪府大阪市)

## 【受賞理由】

- 耳が聞こえないろう高齢者と共通の言語(手話)と背景(ろう文化)を持つろうヘルパーが、ろう高齢者の支援を担っている。言語的アクセスの保障を介護の中心に据える取組であり、バリアフリー社会の実現に直結する点を評価。
- 今後、高齢化が進む社会において、きこえる・きこえないにかかわらず、ろう高齢者が最期まで自分らしく暮らすために、同じ言語(手話)と文化(ろう文化)、経験をもつ支援者が日常的に関わる仕組みは、極めて社会的意義の高い実践であり、ろう当事者による介護支援の在り方を社会に示している。



2024年5月12日(土) 創立20周年前期研修会

## 【 団体概要 】

- 2000年4月の介護保険制度施行と同時に、大阪でろう当事者の運営による訪問介護事業を開始し、2003年11月、正式に「全国ろうあヘルパー連絡協議会」を設立。きこえない・きこえにくい高齢者が年々増加する中、手話をコミュニケーション手段とするろう高齢者に対して、手話言語等でストレスなくコミュニケーションが取れる、きこえない障害をもつ「ろうあヘルパー」による介護支援を行っている。

## 【 功績・功労 】

- 利用者一人ひとりの言語的・文化的背景を踏まえた支援が徹底されており、利用者自身の安心感や生活の質の向上に大きく寄与している。
- 大阪でろう当事者の運営による訪問介護事業が開始されると、その影響で、ホームヘルパー資格を取得するろう者が全国で増え始め、2003年の活動開始当初は23名だったろうあヘルパーは最大170名まで増えた(現在は77名のろうあヘルパーが活動している。)
- 一般の民間介護事業所からも、利用者であるろう高齢者に関する相談が協議会に寄せられており、協会の枠を超えて全国の相談窓口として機能している。



令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
優良賞  
文部科学省推薦

# 特定非営利活動法人ピープル デザイン研究所りんごプロジェクト (東京都品川区)

## 【受賞理由】

- 「りんごの棚」の普及活動を通じて、読書から遠ざかっていた方々に、それぞれのニーズに合った図書と出会えるチャンスを提供。
- 読書に限らず広く福祉への理解につながるツールを紹介・体験するイベントである「超福祉の学校」では来場者が楽しく体験できるよう工夫されており、障害イコール暗い・大変というイメージを払拭するような取組になっている。
- 学校図書館や公共図書館等の教育現場において、障害の有無に関わらず、参加者に読書バリアフリーについて理解してもらうための活動に触れることができるようになっている点も評価。



布絵本を楽しむ様子



点字本「さわるめいろ」に夢中

## 【 団体概要 】

➤ 2012年に東京都渋谷区で設立。ダイバーシティのまちづくり施策の中の1つが「りんごプロジェクト」。大活字本、マルチメディアデージー、LLブック、点字つき絵本、布絵本などの様々な読み方ができるアクセシブルな図書を集めた「りんごの棚」の普及事業を全国約80箇所の学校や図書館、福祉施設等で実施。また、共に学び生きる共生社会の実現を目指すイベント(超福祉の学校@SHIBUYA)を年に1回東京都内(渋谷ヒカリエ)で実施している。

## 【 功績・功労 】

- 「りんごの棚」による普及事業やイベント(「超福祉の学校」)が、アクセシブルな図書に対するニーズの掘り起こしに繋がっている。
- 「りんごの棚」の設置数は着実に増えており、各種学校や図書館とも連携を行っている。
- 直近1年で新たに福井県、徳島県、長野県、愛媛県、栃木県、島根県などで「りんごの棚」が作られており、各地の交流も見られるなど、取組の広がりが見られる。



超福祉の学校@SHIBUYA  
のイベントでの展示



全国各地、小・中・高から大学、  
特別支援学校で授業を実施

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
奨励賞  
神奈川県推薦

## 神奈川県・NPO法人pena

(神奈川県横浜市・平塚市)

### 【受賞理由】

- 当団体は、当事者(低出生体重児の親たち)により発足し運営されており、多様なニーズ、心理的な課題まで細やかな視点で拾い上げ、発信することで同じ悩み・不安を抱える多くの人へ支援を実施。
- 特に「搾乳できます」シンボルマークについては、行政(神奈川県)と連携することにより、短期間で効率的な普及に成功。
- 赤ちゃんの約10人に1人が低出生体重児として生まれている現代社会において、社会全体で搾乳に対する知識・理解を深めるとともに、外出先で搾乳が必要な親を心理面・物理面両方で支援する活動として大きな意味を持っている点を評価。



世界早産児デー写真展(2025年11月)

## 【 団体概要 】

➤ 2024年神奈川県平塚市において、低出生体重児家族の孤立を防ぐとともに、育児に関わる不安などの軽減を目指すことを目的に設立。神奈川県との連携のもと、低出生体重児の母親が、外出先でも安心して搾乳ができるよう、授乳室で搾乳ができることを示すシンボルマークの作成を全国で初めて行ったほか、心理面での支援として、実際に経験者と交流し相談できる場の提供や写真展を行っている。また、神奈川県は当団体等の協力のもと、低出生体重児の子育て手帳「リトルベビーハンドブック」の作成・配布を行っている。

## 【 功績・功労 】

➤ 行政(神奈川県)と連携した結果、「搾乳できます」シンボルマークは発表から2か月程度で、市町村や商業施設等の神奈川県内約370箇所の授乳室で掲示されており、さらに全国各所からの問合せも多い。現在は、県のサイトから自由にダウンロードして使用できるようになっている。

➤ 今後も、当事者の目線に立って、自治体と協働しながら低出生体重児とその家族が、地域で安心して暮らせるよう、様々な取組を展開予定。



搾乳ができることを示すシンボルマーク



かながわりトルベビーハンドブック

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
奨励賞  
総務省推薦

# 株式会社プラスヴォイス

(宮城県仙台市)

## 【受賞理由】

- 病院・救急・警察等をはじめとした「対面コミュニケーションの仲介」に対応できる遠隔手話通訳に取り組み、これを行う通訳専用システム(PVRTC)を自社開発、改良を続け、バリアフリー社会の基盤を長期にわたり実装してきた事業者であり、継続性と体制の成熟度の高さを評価。
- 日常場面から災害時まで、切れ目なくサービスを提供し続けた実績に加え、研修体制、改善プロセス、安定運用等、長期的に事業を維持するための仕組みが企業内で確立しており、継続性の高さを評価。

### Point 1

場所や数に制限なく  
自治体の判断で  
設置できます

### Point 2

利用者の端末も利用可能。  
端末の維持管理が  
発生しません

### Point 3

二次元コードで  
いつでもどこでも  
通訳を提供できます

## 二次元コードを利用した遠隔対面通訳



## 窓口に来られない時は遠隔電話通訳も可能



## 関連施設に二次元コードを発行



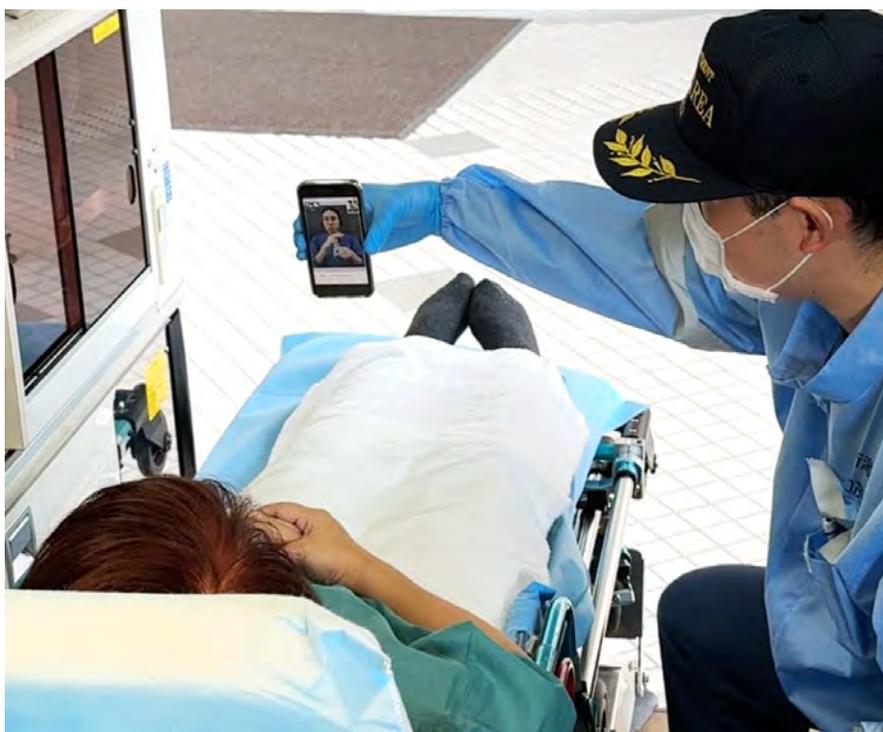
二次元コードを活用し、平時・災害時を通じて利用可能な遠隔通訳の仕組み

## 【 団体概要 】

- 2003年から、全国で初めてとなる遠隔手話通訳サポートサービスを開始し、以降20年以上にわたって、ろう者の生活における役所・病院・救急・警察をはじめとした「対面コミュニケーションの仲介」を特徴とする遠隔手話通訳サービスの提供を行う。通訳専用システム「PVRTC」を独自で開発し、遠隔通訳の仕組みを構築している。

## 【 功績・功労 】

- 災害時でも途切れない支援を行うため、通訳センターを仙台・東京・大阪に分散配置し、いずれかが被災しても全国の通訳者が即時に支援できる体制を整備しており、これまでの震災や気象災害時には、無償で支援を提供した実績がある。
- 行政手続き、医療機関での受診、災害時の情報保障など、社会参加の中核を成す場面で日常的に活用されており、バリアフリー社会の形成に向けて直接的に機能する取組となっている。自治体での導入実績もあり、地域社会の基盤整備に寄与している。



通訳者不足を補完し、命に関わる現場でも機能する遠隔手話通訳

令和7年度

内閣府  
特命担当大臣表彰  
奨励賞

神奈川県推薦

# 公益財団法人神奈川県公園協会・ 特定非営利活動法人HONKI University

(神奈川県横浜市・茅ヶ崎市)

## 【受賞理由】

- 誰もが安全に楽しめる「ユニバーサルカヌー」の体験が、単なるレジャーにとどまらず、自立・挑戦・共生を体感できる場となっている点を評価。
- 公共の公園空間を活用して公園管理者と市民ボランティアとが協働し、障害の有無や年齢を問わず参加できる、地域社会に開かれた場が継続的に創出されている点を評価。
- 設計から実証までを利用者と共に積み上げてきたプロセス、さらには、多様な背景をもつスタッフ同士の結束が活動の持続力を生んでいる点を評価。



ユニバーサルカヌー体験会



## 【 団体概要 】

➤ (公財)神奈川県公園協会は公園管理等を行う財団法人として1975年に設立、NPO HONKI UNIVERSITYは、2014年に発足し、2016年から特定非営利活動法人として活動。両者は連携し、辻堂海浜公園等において、市民ボランティアの協力も得ながら、ユニバーサルカヌー体験会を開催している。また、体験会で使用する、通常のカヌーより転覆しにくいユニバーサルカヌーの製造にも取り組んでいる。

## 【 功績・功労 】

- 2025年12月までに約2千人の障害のある方を含め、約5万人が体験。公園の水辺という身近な空間で、カヌーという非日常の体験を共に楽しむことにより、自然に多様性への敬意が育まれ、共生社会への理解が深まる場となっている。
- 標準のユニバーサルカヌーに加え、「座れるカヌー」や2人乗りタイプなどの多様な艇やSUPなどもあり、障害特性に応じた運用が定着しており、利用者からは、「できることが少しずつ増える」、「挑戦の機会があり成長を感じられる」といった声が寄せられている。
- ユニバーサルカヌーの製造から体験会の運営までを自ら手掛け、多様な人が主体的に関われる運営文化を確立しており、技術面と組織文化の両立が見られる。



体幹を自力で維持できない方も乗れる  
「座れる(座位固定椅子付き)カヌー」

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
奨励賞  
東京都推薦

# 公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンター

(東京都荒川区)

## 【受賞理由】

- 義足に関する国内トップレベルの支援体制が構築されており、診断から相談、リハビリテーションまでワンストップでサービスを提供している民間唯一のリハビリテーション施設としての地道な取組を評価。
- 義足の当事者を義肢装具士や相談員等の職員として配置するとともに、義足のユーザが集う場にもなっており、ユーザー中心の取組が行われている点を評価。



## 【 団体概要 】

➤ 同団体は、公益財団法人鉄道弘済会により、東京都荒川区に設けられた義肢・装具を必要としている者に対する民間唯一の総合リハビリテーション施設であり、医療関係者からなるチームのもと、義肢・装具の製作・修理、リハビリテーション、研究等を総合的に実施している。更にスポーツ用義足の体験等、様々な催しを通じて、誰もが暮らしやすい社会の実現に貢献している。

## 【 功績・功労 】

- 義足に関するノウハウが蓄積されており、30名規模の義肢装具士が所属している。
- 義足だけでなく、義肢・装具や車いすのユーザを含め、総合リハビリテーションを目指した地道な取組が実施されている。義足の提供のほか、見学ツアーや体験イベント等を開催し、バリアフリー社会を推進するための理解・啓発活動を展開している。



義足製作の様子

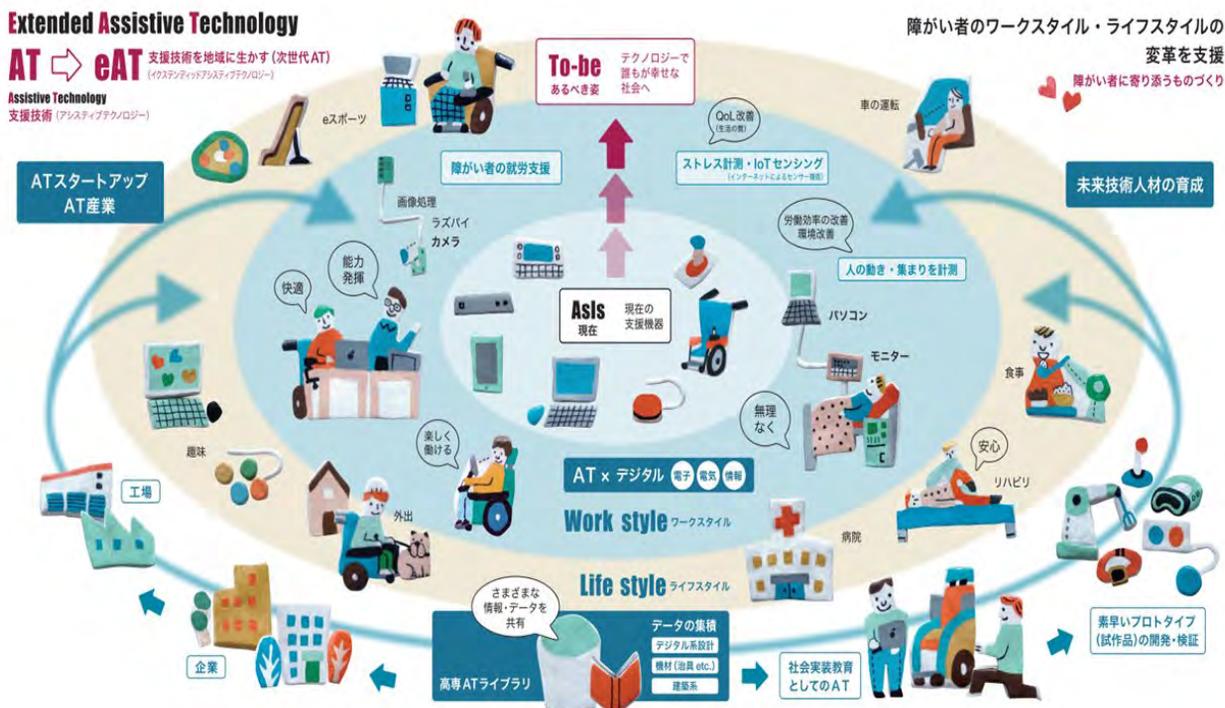
令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
奨励賞  
文部科学省推薦

# KOSEN-ATネットワーク

(熊本県合志市)

## 【受賞理由】

- 高専という実践重視・技術教育重視の場を活用し、学生・教員が協働してAT技術(支援技術(アシスティブテクノロジー))を学び、創り出す経験を得られている。
- 全国規模のネットワーク化により、各高専の知見・設備・人材を共有、補完しながら活動することにより、単校では取り組みにくい地域・自治体連携、産学官協働が可能となっている点を評価。
- 教育機関発の取組としては極めて社会接続度が高く、教育・研究・地域貢献の三位一体の取組を実現している点を評価。



KOSEN-ATネットワークが目指すAT(アシスティブテクノロジー)社会構想

## 【 団体概要 】

- 2012年9月、全国の高専連携による福祉機器の高度化を目指し、KOSEN-ATの母体となる「全国KOSEN福祉情報教育ネットワーク(主幹校:熊本高専)」を発足。
- その後、特別支援教育総合研究所との連携により、特別支援教育におけるDX化の対応として、全国の高専が連携し、研究開発を開始。
- 全国の51高専を5ブロックに分け、福祉研究のハブとなる函館(北海道)、仙台(宮城県)、富山(富山県)、長野(長野県)、徳山(山口県)、新居浜(愛媛県)、熊本(熊本県)の7校が基幹高専として連携し、各ブロック間で福祉教育コンテンツ開発や地域の支援学校や医療機関とのセミナー開催を行っている。

## 【 功績・功労 】

- 各地の高専が具体的な機器(例:義肢・車椅子補助機構・リハビリ支援装置など)開発を実施している。「Japan ATフォーラム」などで実物発表・評価・共同改良が行われており、具体的な成果として、「研究成果」段階ではあるものの、地域福祉施設や自治体への導入例・国際発表もある。
- 全国の高専が連携する仕組みのため、地域格差を超えた水平展開が可能であり、高専教育の中に「社会課題解決型の技術教育」という意識を浸透させるきっかけにもなっている。



視線入力スイッチを用いたe-ボッチャの普及



特別支援教育に利用可能な支援教材の開発

令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
奨励賞  
茨城県推薦

# ひとにやさしいうつわ開発研究会

(茨城県笠間市)

## 【受賞理由】

- 食に対するユニバーサルデザインという考え方のもと、学術的な視点も取り入れ、20年以上継続されている点を評価。
- 「ひとにやさしい器展」の開催、小学生を対象にしたワークショップ、大学等での講演、講習会を通して、食のユニバーサルデザインの普及・啓発に積極的に努めている点を評価。
- 茨城県歯科医師会と連携して、医師会の関連イベントにおいて、うつわの紹介・展示を行っているほか、うつわが各種コンクールにおける記念品として採用されるなど、様々な機会をとらえて工夫しながら、ユニバーサルデザインの考えを広めている点を評価。



## 【団体概要】

➤ 2001年に、「笠間焼商品開発研究会」として、発足。茨城県笠間市と歯科医師会が、「食」をキーワードとしたヘルスプロモーションを、共同プロジェクトとして実施する取組の一環として、「食べる」という行為の一連の流れにバリアを作らない「食のUD(ユニバーサルデザイン)」の考え方にに基づき、笠間焼の作品「ひとにやさしい食器」づくりに取り組んでいる。

## 【功績・功労】

- 子供向けには、食べる意欲を育てることと(例:全部食べると器の底に描かれたイラストが現れる食器)、体の成長に応じたサイズの提供に焦点を当てる一方、障害者・高齢者向けには、機能性を重視し、究極的には、障害にあわせた、特別オーダーで対応するなど、ライフステージに応じた食器を開発。
- 利用者からは、「何らかの障害があっても、家族と同じ食器で食事をするのができた」というような喜びの声があがっている。



令和7年度  
内閣府  
特命担当大臣表彰  
奨励賞  
東京都推薦

# 方南銀座商店街振興組合

(東京都杉並区)

## 【受賞理由】

- 福祉団体と協力し、商店街内の空き店舗を醸造所として活用、クラフトビール製造・販売を実施。
- 醸造所では、障害者が醸造やラベル貼り、接客等をこなしており、障害者の就労機会を創出すると同時に商店街の新たなアイコンとして地域活性化の一端を担っている点を評価。
- 障害者の雇用促進という側面だけに留まらず、商店街振興・地域活性化・障害者就労支援・商品開発という複数の軸(地域活性化、障害者福祉、ビジネス)で取組を実施している点を評価。



方南ローカルグッドブリュワーズ

## 【 団体概要 】

- 1966年に組合を設立。イベントを通して交流があった福祉団体（一般社団法人ビーンズ、NPOふるさとネッツ）が協力し「方南町ビールプロジェクト実行委員会」を2021年に発足、商店街内で数年間空き店舗（築40年以上のお蕎麦屋）となっていた場所を借り上げて改装、醸造所施設を整備しクラフトビールの醸造所（方南ローカルグッドブリュワーズ）として活用、5種類ほどのクラフトビールの製造及び販売を実施。

## 【 功績・功労 】

- 醸造所では、様々な障害を持つ方が働いており、醸造や販売しているビール瓶のラベル貼り、接客までこなしている。
- 商店街内にある8～9店舗に醸造されたビールを卸しており、地域住民へのPRと共に取扱店の売上げ増にも寄与している。
- クラフトビールの利益については、就労支援や子供たちのために投資されると同時に商店街にも還元され、地域活性化の原資となっており、福祉とタイアップした新しい街の活性化策となっている。



クラフトビール

バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰

受賞者一覧

	第1回受賞 平成14年度 (2002年度)	第2回受賞 平成15年度 (2003年度)	第3回受賞 平成16年度 (2004年度)
内閣総理大臣表彰	新井リゾート開発株式会社	京成ホテル株式会社	湖南省
	下田タウン株式会社		南砺市
内閣官房長官表彰 (第3回まで)	Accessible盛岡	伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合	荒 由利子
	伊丹市	岐阜経済大学まちなか共同研究室マイスター倶楽部	伊予鉄道株式会社
	財団法人共用品推進機構	訓子府町	株式会社 イトーヨーカ堂
	株式会社京急 ファインテック	医療法人圭佑会 澤歯科医院	株式会社 オリエンタルランド
	財団法人 すこやか食生活協会	伊勢原・誰もが住みよい街づくり懇話会	高齢者住宅環境整備ボランティア会
	特定非営利活動法人 デイヘルプ	特定非営利活動法人 日本サスティナブル・コミュニティ・センター	仙台シニアネットクラブ
	特定非営利活動法人 福祉のまちづくり 市民ネットワーク	肥後タクシー有限会社	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構、 九州旅客鉄道株式会社
	バリアフリーデザイン研究所	広島電鉄株式会社	
	むくどりホーム・ふれあいの会	福岡県田川郡 大任町立大任小学校	トヨタ自動車株式会社
		村山 輝子	
	有限会社料亭こもだ		

	第4回受賞 平成17年度 (2005年度)	第5回受賞 平成18年度 (2006年度)
内閣総理 大臣表彰	東陶機器株式会社	コクヨ株式会社
	特定非営利活動法人 大阪障害者雇用支援ネットワーク	
内閣府 特命担当 大臣表彰	大牟田住まい・まちづくり ネットワーク	ケア付き青森ねぶた 「じょっぱり隊」
	奥野 花代子	京王電鉄株式会社
	東京急行電鉄株式会社	公立豊岡病院組合
	福岡市交通局	特定非営利活動法人 シーエス障害者放送統一機構
	有限会社雅樹雅	とっておきの音楽祭 実行委員会SENDAI
	有限会社ハートフル・ウィング	富山ライトレール株式会社
		平田観光株式会社
	THE MAGICAL TOY BOX	

	第6回受賞 平成19年度 (2007年度)	第7回受賞 平成20年度 (2008年度)
内閣総理大臣表彰	株式会社 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	品川区立戸越台中学校
	中部国際空港株式会社	富士ゼロックス株式会社
内閣府 特命担当大臣表彰 (優良賞)	岡山県立興陽高等学校	イオン九州株式会社 イオン鹿児島ショッピングセンター
	花王株式会社	泉北若松台AB住宅 団地管理組合
	京都リップル	全国障害学生支援センター
	特定非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会	豊中市
	凸版印刷株式会社	横浜市交通局
	はあとねっと輪っふる	
	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所	
	ユニバーサルデザインリフォーム プラザ静岡	
内閣府 特命担当大臣表彰 (奨励賞)	大洗サーフ・ライフセービングクラブ	池野通建株式会社
	大阪市交通局	五木村立五木中学校・ 熊本県立人吉高等学校五木分校
	大日本印刷株式会社	株式会社袖ヶ浦自動車教習所
	トーワ株式会社	特定非営利活動法人 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
	特定非営利活動法人 子育て支援のNPOまめっこ	特定非営利活動法人 市民生活支援センターふくしの家
		特定非営利活動法人 はままつ子育てネットワークぴっぴ
		特定非営利活動法人 プロジェクトゆうあい
		ピュア・フィールド風曜日
	北極しろくま堂有限会社	

	第8回受賞 平成21年度 (2009年度)	第9回受賞 平成22年度 (2010年度)
内閣総理 大臣表彰	株式会社東京信友	特定非営利活動法人 Color Universal Design Organization
		日本理化学工業株式会社
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院	株式会社サンエ芸
	カシオペア連邦はーとふる発見隊	株式会社特殊衣料
	株式会社タカラトミー	株式会社日立製作所 ユニバーサルデザイン 出前授業プロジェクトチーム
	財団法人 安全交通試験研究センター	東京電力株式会社
	財団法人 明治安田こころの健康財団	特定非営利活動法人 ウィズアス
		有限会社アイ・シー・アイ デザイン研究所
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)	尼崎交通局	あい・あーる・けあ株式会社
	特定非営利活動法人 子育てネットすくすく	刈谷市総合文化センター アイリス
	特定非営利活動法人 多文化共生センターきょうと	
	特定非営利活動法人 ユニバーサルデザイン・結	

	第10回受賞 平成23年度 (2011年度)	第11回受賞 平成24年度 (2012年度)
内閣総理大臣表彰	ケージーエス株式会社	シナノケンシ株式会社
		社会福祉法人 全国手話研修センター
内閣府 特命担当大臣表彰 (優良賞)	オムロン ソーシャル ソリューションズ株式会社	特定非営利活動法人 UDくまもと
	株式会社富士レークホテル	埼玉県警察本部交通部交通規制課
	株式会社 湯郷プラザホテル 季譜の里	社会福祉法人 太陽の家 サンストア
	株式会社らむれす・三角山放送局	日進市立図書館
	特定非営利活動法人 まちづくり推進機構岡山	南医療生活協同組合
内閣府 特命担当大臣表彰 (奨励賞)	国際ユニバーサルデザイン協議会	早稲田大学ボランティアサークル 積み木の会

	第12回受賞 平成25年度 (2013年度)	第13回受賞 平成26年度 (2014年度)
内閣総理大臣表彰	日本聴覚障害学生高等教育支援 ネットワーク (PEPNet-Japan)	和歌山県立博物館施設活性化事業 実行委員会・和歌山県立博物館
内閣府 特命担当大臣表彰 (優良賞)	株式会社アメディア	藤野 稔寛
	特定非営利活動法人 ケーネット知楽市	株式会社電制
		日本ブラインドサッカー協会
内閣府 特命担当大臣表彰 (奨励賞)	いしかわ総合スポーツセンター	大口町立大口南小学校
	有限責任事業組合ASI 栃木	てまるプロジェクト
	有限会社川藤	
	京都府立京都八幡高等学校・ 京都府立八幡支援学校	
	シティホールプラザ アオーレ長岡	

	第14回受賞 平成27年度 (2015年度)	第15回受賞 平成28年度 (2016年度)
内閣総理大臣表彰	株式会社オーエックス エンジニアリング	株式会社ジェイ・ティ・アール
		株式会社静岡新聞社・ 静岡放送株式会社 メディア・ユニバーサルデザイン プロジェクトチーム
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂	有限会社さいとう工房
	川端鉄工所株式会社	なにわー水
	株式会社主人公	
	地域共生型 福祉施設整備協議会	
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)		ヤマハ株式会社新規事業開発部 SoundUDグループ
		座間キャラバン隊

	第16回受賞 平成29年度 (2017年度)	第17回受賞 平成30年度 (2018年度)
内閣総理大臣表彰	仙台市交通局	有限会社 エクストラ
	全日本空輸株式会社・ ANAウイングス株式会社	
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	石狩市	社会福祉法人 愛知たいようの杜
	株式会社エスコアール	明石市
	道の駅 常陸大宮	合同会社 Chupki
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)	オプトニカ工房有限会社	藤巻 進
	篠原電機株式会社	富士見高原リゾート 株式会社
	戸田市立笹目小学校	
	株式会社スワン	

	第18回受賞 令和元年度 (2019年度)	第19回受賞 令和2年度 (2020年度)
内閣総理大臣表彰	一般社団法人日本玩具協会	株式会社 アステム
		東急電鉄株式会社
内閣府特命担当大臣表彰 (優良賞)	WHILL株式会社	岡山放送株式会社 「手話が語る福祉」制作チーム
	中橋真紀人	セイコーウオッチ株式会社
	特定非営利活動法人 バリアフリーネットワーク会議	Palabra株式会社
	富士市	
内閣府特命担当大臣表彰 (奨励賞)	株式会社システムギアビジョン	奥山梨衣
	特定非営利活動法人 せんだいアビリティネットワーク	神奈川トヨタ自動車株式会社
	株式会社ファンケル	大日本印刷株式会社
	特定非営利活動法人 横濱ジェントルタウン倶楽部	特定非営利活動法人 福祉住環境ネットワークこうち

	第20回受賞 令和3年度 (2021年度)	第21回受賞 令和4年度 (2022年度)
内閣総理大臣表彰	株式会社高知システム開発	毎日新聞社点字毎日
	社会福祉法人佛子園 輪島KABULET®拠点施設	
内閣府特命担当大臣表彰 (優良賞)	オムロンヘルスケア株式会社	株式会社アイエスゲート
	特定非営利活動法人Creer	NPO法人わくわーく
内閣府特命担当大臣表彰 (奨励賞)	東京大学バリアフリー支援室	全国脊髄損傷者連合会 山形県支部
	認定特定非営利活動法人 トラッソス	社会福祉法人悠林舎 障害者支援施設シーズ
	特定非営利活動法人 日本バリアフリー協会	

	第22回受賞 令和5年度 (2023年度)	第23回受賞 令和6年度 (2024年度)
内閣総理 大臣表彰	社会福祉法人あさがお福祉会 Tsuda-Machi-Kitchen	社会福祉法人 埼玉聴覚障害者福祉会
	特定非営利活動法人メディア・ アクセス・サポートセンター	
内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)	株式会社Lean on Me	只石幸夫
	公益社団法人 鳥取県聴覚障害者協会	公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立尼崎青少年創造劇場及び 兵庫県立ピッコロ劇団
内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)	千葉県立東金特別支援学校 パラスポ推進隊	株式会社Halu
	特定非営利活動法人 町田ハンディキャブ友の会	みんなでつくる音楽祭 in小平実行委員会

第24回受賞 令和7年度 (2025年度)	
<b>内閣総理 大臣表彰</b>	宇都宮市・芳賀町・宇都宮ライト レール株式会社
	貝谷嘉洋
	社会福祉法人ながよ光彩会
<b>内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)</b>	iPresence株式会社
	錦城護謨株式会社
	公益社団法人SSP
	全国ろうあヘルパー連絡協議会
	特定非営利活動法人ピープルデザ イン研究所りんごプロジェクト
<b>内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)</b>	神奈川県・NPO法人pena
	株式会社プラスヴォイス
	公益財団法人神奈川県公園協会・ 特定非営利活動法人HONKI University
	公益財団法人鉄道弘済会義肢装具 サポートセンター
	KOSEN-ATネットワーク
	ひとにやさしいうつわ開発研究会
	方南銀座商店街振興組合

	第24回までの 受賞件数
<p style="text-align: center;"><b>内閣総理 大臣表彰</b></p>	<p style="text-align: center;">内閣総理大臣表彰      38件</p>
<p style="text-align: center;"><b>内閣府 特命担当 大臣表彰 (優良賞)</b></p>	<p style="text-align: center;">内閣官房長官表彰 (1回～3回)      28件</p> <p style="text-align: center;">内閣府特命担当大臣表彰 (4回・5回)      14件</p> <p style="text-align: center;">内閣府特命担当大臣表彰 優良賞 (6回～24回)      71件</p>
<p style="text-align: center;"><b>内閣府 特命担当 大臣表彰 (奨励賞)</b></p>	<p style="text-align: center;">内閣府特命担当大臣表彰 奨励賞 (6回～23回)      61件</p>
	<p style="text-align: center;">総計 212件</p>

注1) 本表彰は、第6回までの間、「バリアフリー化推進功労者表彰」として実施。

注2) 「受賞者」の名称は、受賞当時の名称で記載。

# バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要綱

令和8年1月20日  
内閣総理大臣決定

## 1 目的

この表彰は、ユニバーサル社会の実現に向けた諸施策の総合的かつ一体的な推進に関する法律（平成30年法律第100号）の目的を踏まえ、障害者、高齢者等（障害者、高齢者その他その身体の状態に応じて日常生活又は社会生活上配慮を要する者）が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード、ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインを効果的かつ総合的に推進する観点から、その推進について顕著な功績又は功労のあった個人又は団体を顕彰し、もって、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する優れた取組を広く普及させることを目的とする。

## 2 表彰の対象

バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進に関して、施設の整備、製品の開発、推進・普及のための活動等において、極めて顕著な、又は特に顕著な功績又は功労のあった個人又は団体

## 3 表彰者

極めて顕著な功績又は功労があったと認められる者については内閣総理大臣、特に顕著な功績又は功労があったと認められる者については高齢社会対策又は障害者施策を担当する内閣府特命担当大臣が置かれている場合には当該大臣（以下「担当大臣」という。ただし、担当大臣が置かれていない場合には内閣官房長官）

## 4 表彰の方法

表彰状及び記念品の交付

## 5 表彰の時期

表彰は、年一回行う。

## 6 表彰の手続

都道府県等から推薦された者のうちから、別に定める選考委員会の意見を聴いて、内閣総理大臣又は担当大臣が被表彰者を決定する。

## 7 表彰の事務

表彰に関する事務は、関係省庁の協力を得て、政策統括官（共生・共助担当）において処理する。

## 8 その他

この要綱に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、政策統括官（共生・共助担当）が定める。

※令和7年度についてはバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰要綱（平成13年11月6日）〔平成29年4月3日一部改正〕に基づいて実施

令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰  
選考委員会 委員名簿

委員長

中野 泰志 慶應義塾大学教授

委員

池田千登勢 東洋大学教授

宇野 和博 筑波大学附属視覚特別支援学校教諭

大森 宣暁 宇都宮大学教授

近藤 武夫 東京大学先端科学技術研究センター教授

佐藤 聡 NPO法人DPI日本会議事務局長

中津 真実 東京大学多様性包摂共創センターバリアフリー  
推進オフィス特任講師

山崎 まゆみ 温泉エッセイスト  
観光ジャーナリスト  
跡見学園女子大学兼任講師  
VISITJAPAN大使

吉野 幸代 一般財団法人全日本ろうあ連盟理事

(敬称略、50音順)

内閣府政策統括官（共生・共助担当）付  
参事官（総合調整担当）

〒100-8914

東京都千代田区永田町 1 - 6 - 1  
中央合同庁舎第 8 号館

H P : [https://www8.cao.go.jp/souki/  
barrier-free/bf-index.html](https://www8.cao.go.jp/souki/barrier-free/bf-index.html)